

日本の高1生、世界で読解力3位、数学5位、科学2位(OECD2022年PISA調査)

— 2025年から英語の調査も。しっかり英語力も身に着けよう! —

開倫塾

塾長 林明夫

Q1：世界一はどこ国ですか。

A：(1)読解力・数学・科学のすべての分野でシンガポールが世界第1位でした。

(2)日本も読解力3位、数学5位、科学2位と素晴らしい成績でした。

(3)2025年からこのテストに英語が加わります。シンガポールの公用語は英語で、小学校1年生からすべての教科を英語で学んでいますので、とても有利です。また、多くの教科を英語で学んでいる国もたくさんあります。日本は、英語以外の教科は日本語で学んでいますので、相当頑張る必要があります。



Q2：この「読解力」のテストはどのようなものですか。

A：(1)文章から必要な情報を探し出したり、根拠(理由)を示しながら自分の考えを説明したりする力、つまり思考力と表現力が求められるテストです。

(2)自分の力で教科書を読み、よく理解する。その中で興味・関心のあることを自分の力でさらに調べ、自分の考えをまとめ、授業中に発表し合う。自分の考えを深めることで、この「読解力」は身に着きます。

(3)これから求められるのは、自分自身で教科書を「予習」し、「理解」した上で、大切なことは自分で「身に着ける(定着)させる」こと。さらには、興味・関心のあることを自分で調べ、自分の考えを自分の力でまとめること。その上で、授業に臨み、根拠を示しながら自分の考えを説明すること。友だちの考えも聞きながら、「理解」を深めることです。



Q3：エッ、何だかすごいことになっているのですね。

A：(1)その通りです。これからの授業で大切なことは、自分で考える力を伸ばすことです。

(2)これからは、先生が教科書の内容を一語一語ていねいに「これはこうだからね」とわかりやすく説明するような、一方的な授業は少なくなります。

(3)教科書に書いてある内容は、家で自分の力で学び、「理解」すること。「音読練習」「書き取り練習」「計算練習」は、「予習」や「復習」として家で行うことが求められます。



Q 4 : 家で教科書・教材・問題集の「予習」や「復習」をしないとどうなるのですか。

A : (1) 学校の授業は、各自の意見発表やディスカッションが多くなるため、教科書内容の「理解」や「定着」が少ないと、知識があやふやでよく身に着いていないまま、定期テストや入学試験を受けることになり、よい点数はあまり望めないと考えます。



(2) ですから、教科書の「予習」と授業後の「復習」をしっかり行い、自分の力で教科書内容を「理解」すること。

(3) 「予習」と「復習」の時間に、教科書・教材・問題集を用いて「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をやるだけやる以外にありません。

○定期テスト対策は、いくら遅くても1か月前から行い、教科書・教材・問題集をスミからスミまで十分に「理解」した上で、スミからスミまで「覚える」「定着させる」以外にありません。

Q 5 : 「英語」「数学」「科学」はどのように学んだらよいのですか。

A : (1) 英語は、2025年度の英検から「準2級」と「2級」の間に高校2年生レベルの「新級」ができます。早めに5級、4級、3級、準2級を取得し、「新しい級」の合格を目指しましょう。

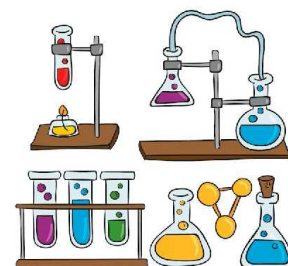


(2) 「数学」「科学」は社会の中での使い方が問われますので、新聞の記事で図表や統計が載っているもの、科学に関係あるものを注意深く読み続けることが大切です。

(3) 図書館で「数学の読みもの」「科学の読みもの」を探し、自分の興味・関心に合わせてどんどん読むことをおすすめします。

○「科学のTV番組」「科学の雑読」はおすすめです。

○講談社の新書本「ブルーボックス」シリーズは超おすすめです。是非、図書館や書店で手に取ってみてくださいね。



Q 6 : 最後に一言どうぞ。

A : (1) これからの世の中で求められるのは「読解力」「数学」「科学」「英語」であることが、この調査でよくわかります。

(2) これらすべての基礎は、英語を含め「読解力(文章や情報を正確に読み解く力)」です。

(3) ①よく意味のわからない言葉があったら気持ちが悪いと考え、辞書を用いて調べる

②新聞を毎日30分以上読み、批判的思考能力を育てる

③読書を毎日3分以上行い、思慮深さを身に着ける

④学校図書館に毎日行く。公共図書館に週何回か行く

○以上を学習習慣としてしっかり身に着けましょう。

